

岡山県 総合政策局 地方創生推進室 × 山陽学園大学 上地研究室

若者の「自分らしさ」が叶う 岡山づくり検討事業

東京グループインタビュー 中間報告会

2026年10月15日（木） 15:30～16:30 山陽学園大学 本館604

発表：東京インタビューに参加した上地研究室の学生（A班～D班）

発表の構成

1 調査の概要

実施概要・当日の様子・データ収集状況

2 首都圏アンケートの結果

岡山県出身若者40件の回答から

3 インタビューから見たこと

学生インタビューメモより（班別）

4 学生のふりかえり

聞き手として学んだこと・感じたこと

5 総合考察と今後の予定

暫定的な整理と、これからの進め方

1 調査の概要

東京グループインタビューの実施概要

実施日	2026年9月8日（火）
会場	とっとり・おかやま新橋館（東京都港区新橋）
対象	首都圏に進学・居住している岡山県出身の大学生等
聞き手	上地研究室の学生12名（A班～D班）
構成	第1クール 14:00～15:00／第2クール 16:00～17:00 各班とも、クールごとに異なる参加者を担当

この事業で大切にしている視点

岡山に住んでいる時には当たり前すぎて気づきにくい魅力と、県外に出て初めて再発見される岡山の価値を比較し、若者が「自分らしく働き、暮らし、つながる」ために必要な条件を可視化する。

1 調査の概要

当日の様子



会場全体の様子（グループインタビュー実施中）



班ごとのグループインタビューの様子

1 調査の概要

3つのデータをもとに整理しました

40件

首都圏アンケート

岡山県出身若者の意識調査。同意回答44件から関係者のテスト送信4件を除いた有効回答

11／12名

学生ふりかえりアンケート

9月15日締切。回答済み11名分を集計

4／12名

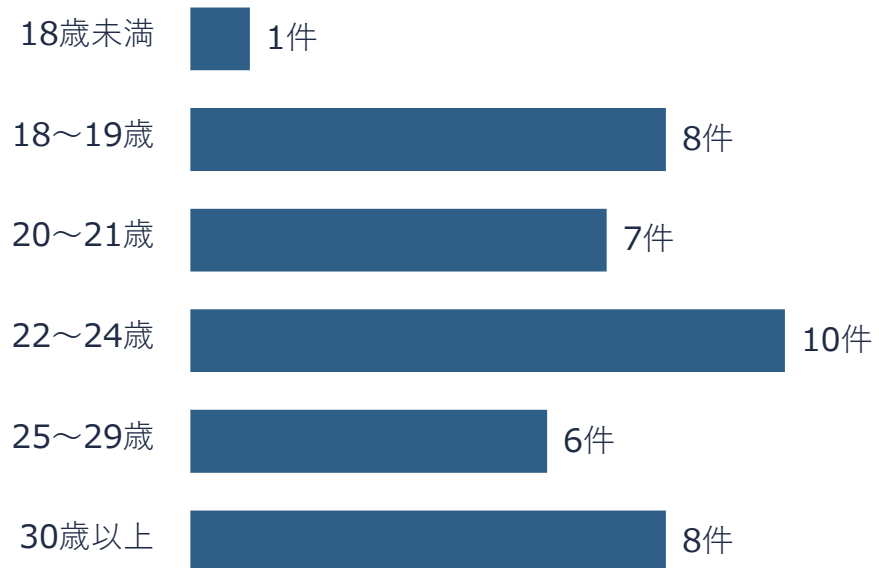
学生インタビューメモ

逐語記録。現時点で4名分（A～D班）。残り8名分は収集中

2 首都圏アンケートの結果

回答者のプロフィール（40件）

年齢



現在の立場



居住地

東京都 36件 埼玉県 2件 大阪府・千葉県 各1件

岡山県との関わりは「岡山県出身（高校まで岡山にいた、実家がある等）」が35件と中心。

2 首都圏アンケートの結果

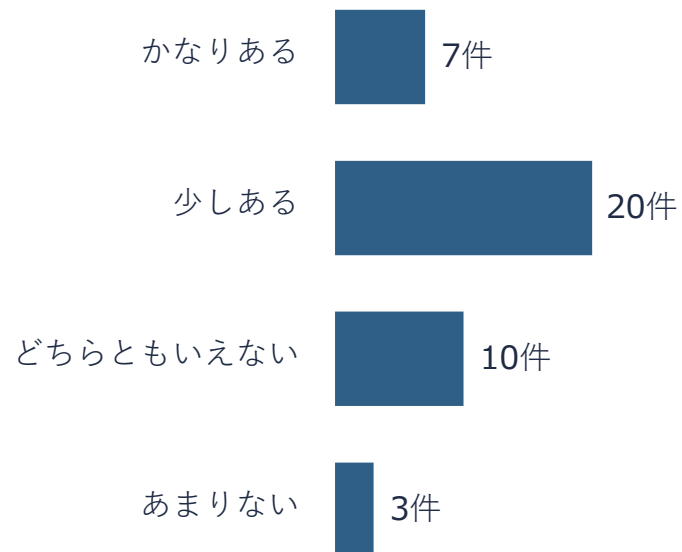
岡山への親しみは強く、戻る意向は「中間～高め」

岡山への親しみ（5点満点）

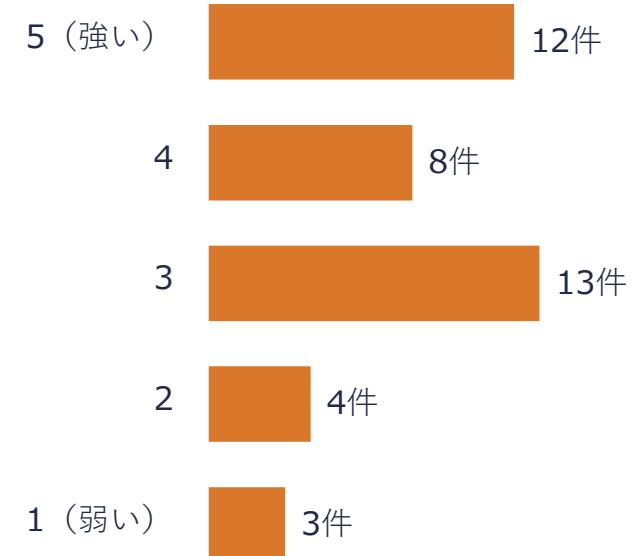
38 / 40件

が4点以上
(5点 : 31件、4点 : 7件)

将来、岡山に住む可能性



戻りたい気持ち（5段階）



岡山で働くことへの関心 : 「とてもある」 7件、「ややある」 17件、「あまりない」 9件

2 首都圏アンケートの結果

都市部の魅力は「就職先の多さ」が突出

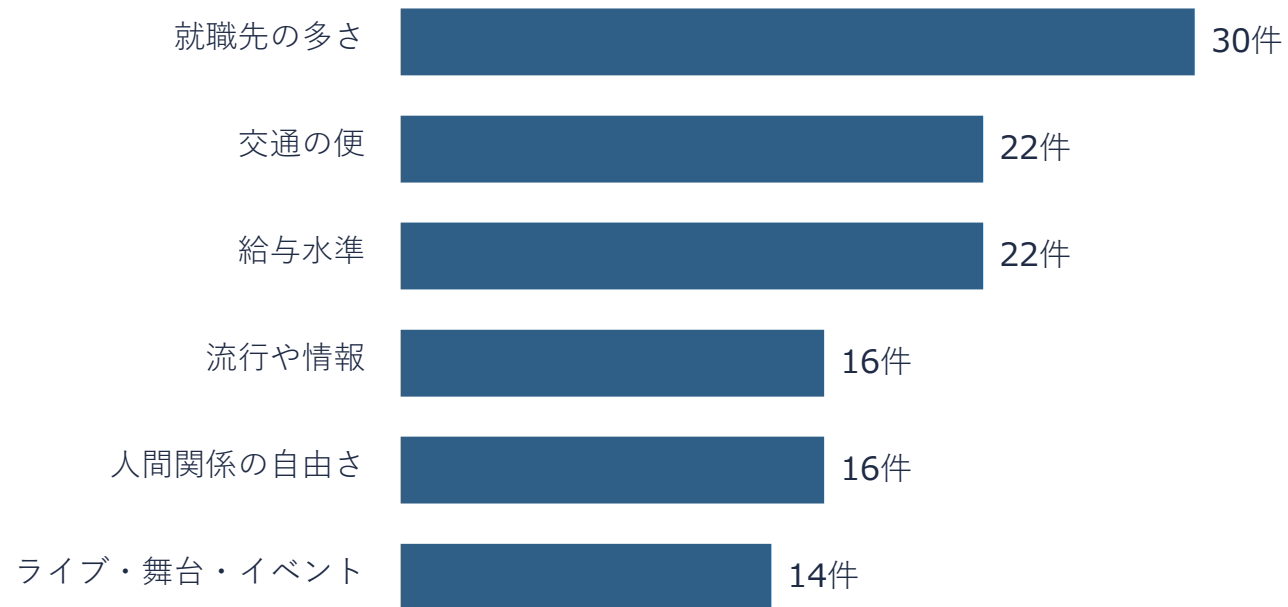
都市部に魅力を感じる

36 / 40件

「とても感じる」19件

「やや感じる」17件

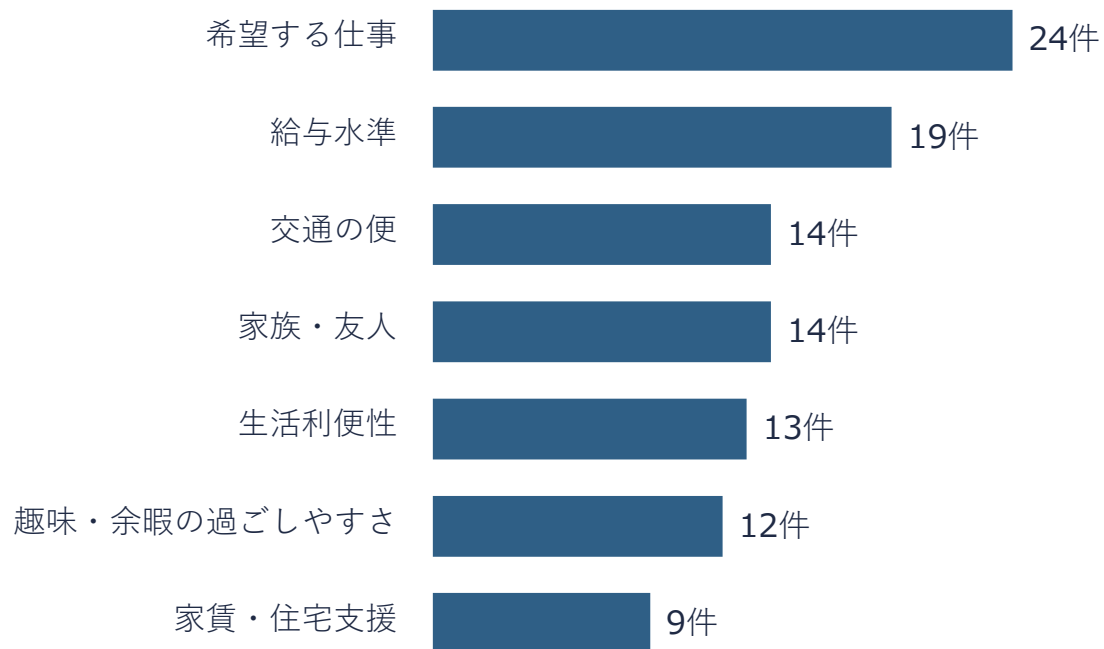
魅力を感じる理由（複数選択）



2 首都圏アンケートの結果

戻る条件のトップは「希望する仕事」

戻る・残るための条件（複数選択）



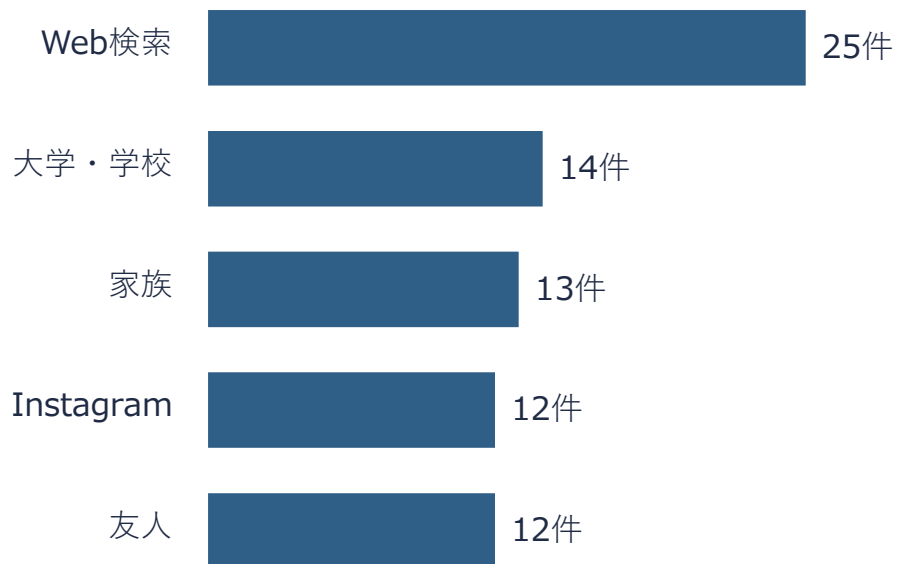
自由記述の声

- 結婚・出産・親の介護・老後など、ライフイベントを機に検討する
- 「今の仕事や専門性を活かせる職があれば」
- 「今の生活水準を落とさない」「配偶者を説得できるだけの給与水準」
- 交通の便の向上、起業支援・経済的補助、レジャー施設の充実

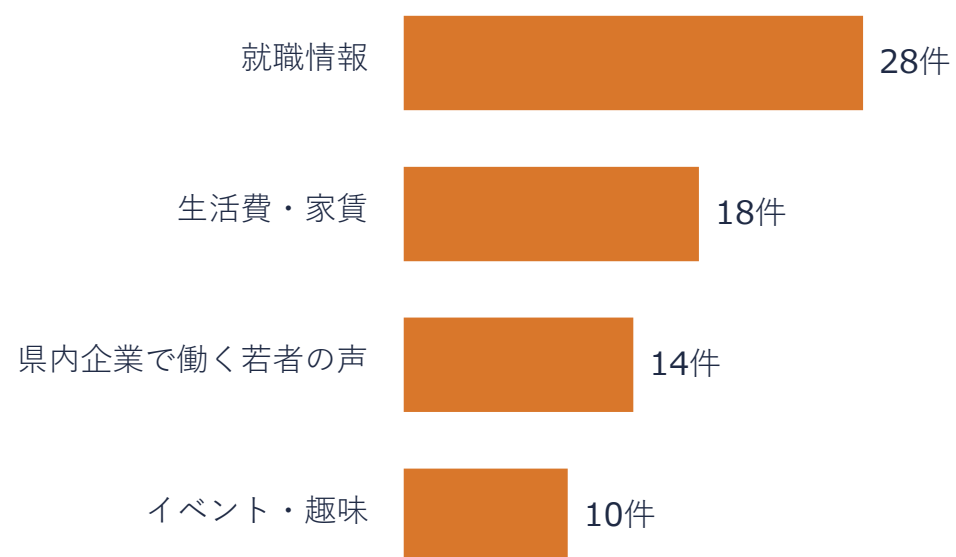
2 首都圏アンケートの結果

求められているのは「就職」と「暮らし」の情報

進学・就職・居住地を考える際の情報源



岡山県・市町村からあるとよい情報



自由記述から見た岡山の魅力と要望

岡山の良いところ

- 自然の豊かさ
- 人の温かさ
- 程よい都会と田舎のバランス
- 気候の良さ
- フルーツなど食べ物のおいしさ

うらやましい点：家賃・物価の安さ、混雑の少なさ、自然の近さ、地元の友人との距離の近さ

あったらいい・変わってほしいこと

- 交通インフラ（地下鉄・LRT、鉄道の増発、渋滞緩和）…最も多い
- 娯楽施設・イベントの充実
- 雇用機会の拡充
- 首都圏在住の岡山県出身者との交流機会
- 移住支援策の拡充

3 インタビューから見たこと

岡山を出たきっかけは「大学進学」が中心

A班

東京大学に進学したいという意志が先にあり、外の世界を見たい・刺激のある大学生活を送りたい

B班

志望する分野・校風の大学が東京にしかなかった（キリスト系大学、水産学、歴史研究など）

C班

県外より良い環境で学びたい、一人暮らしをしてみたい。志望分野が岡山になかった、あえて厳しい環境で力を試したい

D班

東京の方が給料水準が高く知人も多い。岡山に希望する大学がなかった

3 インタビューから見たこと

東京の魅力と、岡山の再発見

東京で感じる魅力

- 電車・移動の利便性（A・B・C班）
- 学べる機会・多様な出会い（A・B班）
- 挑戦しやすさ・選択肢の広さ・収入面（D班）
- 店舗・娯楽施設・イベントへの行きやすさ（B・C班）

一方で、家賃・物価の高さが負担という声も（C班）

離れて気づいた岡山の良さ

- 地震・災害の少なさ（A・B班）
- 天候の良さ・自然環境（A・C・D班）
- 人の温かさ・友人とのつながり（B・C班）
- 食べ物のおいしさ・魚介類の安さ（A・B・C班）
- 家賃の安さ・広い住まい（C・D班）

人との距離感：東京は岡山ほど距離が近くない。岡山は人間関係が広がりやすい反面、少し面倒と感じる声も（C班）

3 インタビューから見たこと

戻りたい気持ちと、仕事の壁

戻る可能性は「ある」との声が多いが、条件の中心は「やりたい仕事が岡山にあること」（C班）

A班

同じ職種であること、
収入を落とさないこと
、移住支援金、遊べる
施設の充実

B班

希望業界（航空関連等）
の求人の少なさが障
壁

C班

音楽関係など東京に
いる意味が大きい分野は
東京に。教員のように
岡山でも可能な職なら
選択肢に

D班

子育てを見据えた自然
環境への希望と、教育
・収入面での東京優位
との葛藤

年齢を重ねたり子どもができたりすると、東京の家賃・生活費の高さが問題になるとの見方も（C班）

自分らしさと、県・市町村への提案

「自分らしさ」を感じるとき

- 好きなことをする時間（A班）
- 専門知識を活かせる場や友人関係があれば（B班）
- 新しい発見や行動を通じて（D班）
- 岡山でも自分らしく働き・暮らすことは「可能」との声が多い。ただし仕事の種類によっては都市部へ。何を重視するかで住む場所を選ぶ（C班）

県・市町村への提案

- プロモーション強化、著名出身者による発信（B班）
- 農泊・民泊体験（B班）
- 移住・子育て支援のまとめサイト、SNSでの移住者発信（A班）
- 子育て支援・企業情報のSNS発信、チェーン店の充実（D班）
- 電車の本数増、鷺羽山ハイランド等をTikTok等で宣伝、待遇の良い仕事・企業誘致（C班）

4 学生のふりかえり

聞き手として学んだこと

印象に残ったこと

岡山を離れた理由は「岡山が嫌になったから」ではなく、**進学や就職という目的のため**。岡山への愛着を保ったまま東京で暮らす人が多い。

工夫したこと

- 雑談を交えて、安心して話せる空気をつくる
- 自分から先に自己開示する
- 相手の言葉に合わせて質問の言い回しを変える

難しかったこと

- 欲しい情報をピンポイントで深掘りすること
- 世間話とインタビュー内容のズレを軌道修正すること
- 話をまとめて次の質問につなげること

学生が東京で感じた「岡山との違い」

東京で良いと感じたこと

- 電車の本数・移動の利便性（大多数）
- 品揃えの良さ、地方にない店舗の多さ
- アニメ・ドラマとのコラボ企画の多さ

岡山の方がいいと感じたこと

- 人混みの少なさ・落ち着き
- 自然の豊かさ、空気・天候の良さ
- 「住み続けられる、生きやすい町」

岡山にあったらいいもの

- 娯楽・レジャー施設（「遊ぶところがイオンしかない」）
- 電車・ループバス等の公共交通
- ポップアップ・推し活イベントの定期開催
- 専門分野の企業誘致、体験移住制度の拡充

5 総合考察

「**住み心地**」は、すでに評価されている。
課題は「**経済的・キャリア的な受け皿**」

自然環境、災害の少なさ、人の温かさ、程よい都会と田舎のバランス、物価の安さは一貫して評価。
一方で、仕事・収入が「戻る・残る」判断の壁になっている。

3つの視点からの整理

1

なぜ岡山を離れるのか

- 岡山への不満よりも、東京側の選択肢・機会の多さが主な動機
- 都市部の魅力の理由は「就職先の多さ」30件が突出

2

流出の背景にある課題

- 職の選択肢の狭さ（戻る条件の1位「希望する仕事」24件）
- 娯楽・レジャー施設の少なさ
- 魅力の発信不足：住みやすさが分かりやすい強みとして伝わっていない

3

戻る・残る条件の2タイプ

- ライフイベント連動型：結婚・出産・親の介護・老後などの節目で検討
- 職・収入の折り合い型：専門性を活かせる仕事、生活水準を保てる給与があれば



ありがとうございました

ご質問・ご意見をお聞かせください

山陽学園大学 総合人間学部 ビジネス心理学科 上地研究室